

環境教育を進める取り組みの柱

環境教育を進めるにあたり、次の4つを取り組みの柱とします。

1 人材の育成

自ら学ぶだけでなく、リーダーが教えることで環境に配慮した行動を効率的に促すことができます。リーダーの育成が環境教育を進めるうえでの鍵となります。

2 情報の共有・活用

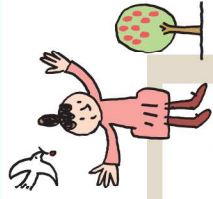
環境教育の指導や学習に必要な情報を手に入れるにはかなりの労力を要するため、必要な情報を整理・体系化し使いやすく、共有していくことが求められます。

3 プログラムの作成

指導上手引きとなるプログラムがあれば一定のレベルを保った効果的な環境教育の実践が期待できます。プログラムでは環境教育の基礎となるものの提示が必要です。

4 機会づくり・場づくり

学習者のニーズにあった環境教育の機会が行き渡るようにし、また、環境教育関連施設は、環境教育の拠点(=場)として機能することが求められます。



札幌市における環境教育の取り組みの重点化

この基本方針では、対応の緊急性が高い地球環境問題に着目し、誰もが取り組みやすい身近なことを重点行動として、効果的に環境教育を進めます。

重点化するテーマ ⇒ 地球環境問題への対応

深刻化する地球環境問題の解決には、世界共通の認識にたつて、自分たちができていることに気づき、行動をおこすことであり、そのためには環境教育が重要な役割を果たします。

重点化する3つの行動

地球環境問題に対応し、環境に配慮した行動に大きな広がりをもたらせるため、日常生活に密接し、誰もが身近に取り組みめる行動である次の3点を重点行動とします。

① 「省エネ行動を進めます！」

地球温暖化問題の解決には、主な原因であるCO₂を削減することが大切です。一人一人がライフスタイルを見直し、省エネ行動を定着させていきます。

② 「ごみ減量・リサイクルを進めます！」

ごみ問題の対応の鍵は4R(Refuse[断る]、Reduce[減らす]、Reuse[繰り返し使う]、Recycle[資源として再利用する])です。これらをライフスタイルとして定着させ、自分の生活に合わせ、取り組みやすい行動から実践していきます。

③ 「水とみどりを守り育てます！」

環境教育のなかで体験を通じて水とみどりの自然を学ぶ機会をもつけ、水とみどりの大切さを理解し、守り育てる活動をしていきます。

重点化する対象 ⇒ 子ども(学校)を対象

子どもの頃から、環境に配慮した生活習慣を身につけることは、生涯にわたって行動の実践と、次世代にその行動が引き継がれることが期待できます。また、子どもへの環境教育を重点化することで大人の環境意識も育つことが期待されます。1日の大半を学校で過ごし学校生活から受ける影響は大きいいため、子どもへの環境教育を行うには学校が重要です。

基本方針を推進するための方策

この基本方針を推進するにあたって、次の方策を行っていきます。

1 具体的な取り組みの明示

基本方針に基づき環境教育を推進するため、具体的な取り組みを明示します。

2 推進体制の強化

意見交換や情報提供が行えるような場や仕組みづくりを行うなど、それぞれの主体が協働して取り組みを進めます。また、施策を具体的に推進するため財政基盤を整備していきます。

3 基本方針の評価と改善

施策の進捗状況や効果などを、家庭・学校・市民団体・事業者・札幌市が協働で定期的に評価、検証する体制を整備します。また、必要に応じて方針の改善や見直しを行います。

